報道関係者各位

大正製薬株式会社
〒170-8633　東京都豊島区高田 3-24-1

2026 年 11 月 19 日

健やかな髪を育むために
頭皮環境を支える 3 種のビタミン類の可能性



3種のビタミン類の組み合わせが
3つの髪悩みにアプローチできる可能性

・抜け毛予防
・髪質の悪化抑制
・ハリ・コシの向上に寄与

「分け目の透け感が気になる」「髪のボリュームが出にくい」
このような髪の変化を感じていませんか？
女性の髪の変化は、年齢だけでなく、生活習慣や頭皮環境など、複数の要因が重なって起こると考えられています。
こうした変化に対し、近年は頭皮環境を支えるビタミン類の働きについても研究が進められています。
大正製薬からは、健やかな髪を育むために重要なビタミン類の可能性についてご紹介します。

そもそも抜け毛の原因とは？

抜け毛の要因はさまざまですが、加齢による頭皮を構成する細胞の働きの低下やタンパク質・アミノ酸の代謝の変化、皮脂の酸化などによる皮脂バランスの変化といった頭皮環境の変化が関与している可能性が考えられています。
ここで注目されているのが、頭皮環境を支えるビタミン類の働きです。

健やかな髪を育む注目のビタミン類

健やかな髪を育む上で特に注目したいのが、パンテノール、ピリドキシン塩酸塩、トコフェロール酢酸エステルの３種のビタミン類です。

・パンテノール
パンテノールは、ビタミンＢ群に属するパントテン酸の仲間で、体内でパントテン酸に変わります。パントテン酸は、体の中でエネルギー産生に関わる成分です。細胞が健やかに働くための土台を支え、細胞の生まれ変わりにも関与しています。そのため、頭皮を構成する細胞の働きをサポートし、健やかな頭皮環境の維持に役立つ成分として知られています。

・ピリドキシン塩酸塩
ピリドキシン塩酸塩は、ビタミン B6 の一種です。体の中では、タンパク質・アミノ酸の代謝を助ける働きを担っています。これらは髪や頭皮を構成する成分とも関わることから、ビタミン B6 は健

やかな頭皮環境の維持を支える栄養素として知られています。また、頭皮の乾燥やフケ、抜け毛が気になる方に向けたケア成分としても使用されています。

・トコフェロール酢酸エステル
トコフェロール酢酸エステルは、ビタミン E の一種で、頭皮を酸化ダメージから守るはたらきが期待される成分です。皮脂の酸化を抑え、頭皮の状態を健やかに保つほか、血行を促すことも報告されています。

このように、これらのビタミン類は、頭皮環境に関わる細胞の働きや、タンパク質・アミノ酸の代謝、皮脂の酸化抑制など、それぞれ異なる視点から健やかな頭皮環境を支える成分として知られています。では、これらを組み合わせた場合、毛髪に関わる因子にはどのような影響があるのでしょうか？

3 種のビタミン類の組み合わせで、毛髪に関わる因子の発現が増加

今回、3 種のビタミン類（パンテノール、ピリドキシン塩酸塩、トコフェロール酢酸エステル）の組み合わせに着目し、その作用について検討を行いました。その結果、3 種のビタミン類を添加した群はビタミン類を添加していない群と比べて、抜け毛予防関連因子であるデスモグレイン 3（※1）、髪質関連因子であるリゾホスファチジン酸受容体 6（※2）及びハリ・コシ関連因子であるケラチン関連タンパク質 5-1（※3）の遺伝子発現量が増加することが確認されました（図 1）。このことから、これらのビタミン類の組み合わせは、抜け毛を防ぎ、髪質の悪化を抑制し、さらにハリ・コシの向上に寄与する可能性が示されました。

【試験方法】
ヒト毛包上皮細胞に 3 種のビタミン類を組み合わせて添加した後、デスモグレイン 3、リゾホスファチジン酸受容体 6 及びケラチン関連タンパク質 5-1 の遺伝子発現量を RT-PCR 法により評価。
なお、グラフはビタミン類添加なしのコントロールの値を「1」とした場合の平均発現比（n=5）。

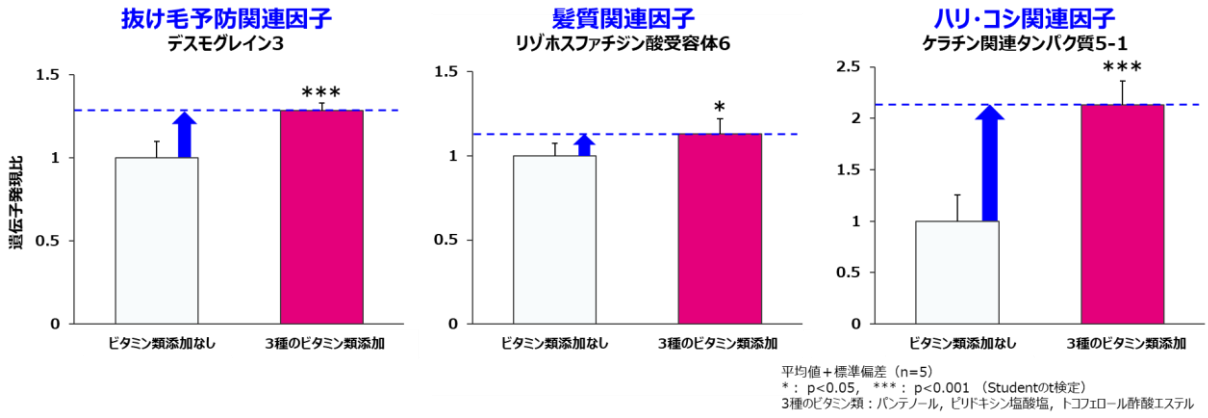


図 1．3 種のビタミン類の組み合わせによる毛髪関連遺伝子の発現変動

最後に

良好な頭皮環境の維持に不可欠なビタミン類の重要性と、毛髪への具体的な影響についてご紹介しました。更に、パンテノール、ピリドキシン塩酸塩、トコフェロール酢酸エステルの組み合わせが髪

の健康を多角的にサポートする可能性を秘めていることが、今回の実験により示唆されました。
　これからも皆さまの健康と安心をサポートすべく、信頼できる情報の提供に努めてまいります。

【用語説明】
※１：デスモグレイン３：毛髪強度の指標として報告されており、休止期毛を毛包に固定することで、抜け毛予防に関与する可能性が報告されている。

※2：リゾホスファチジン酸受容体６：遺伝性毛髪疾患の原因遺伝子の一つ。正常に機能しないと髪質を正常に保つことができず、毛髪が縮れることが報告されている。先行研究から、加齢による毛髪のうねり・くせ毛に関与することが示唆されており、この遺伝子の発現が低下することで、髪質の悪化につながる可能性が示されている（2023 年 2 月 15 日発表リリース：https://www.taisho.co.jp/company/news/2023/20230215001237/）。

※3：ケラチン関連タンパク質 5-1：毛髪のハリ・コシに関与し、加齢に伴って発現量が減少することが報告されている。

＜本件に関する報道機関からのお問い合わせ先＞
大正製薬株式会社　メディア推進部　03-6382-7304
梶田　寛文　　h-kajita@taisho.co.jp
田中　秀治　　shuj-tanaka@taisho.co.jp